

2025(令和7)年度 大阪商業大学共同参画研究所 事業実施報告

はじめに

大阪商業大学共同参画研究所（以下「研究所」という。）は、地域創造の担い手である中間組織（町会・自治会、NPO、企業、大学等の教育機関など）に関わる人々が社会的包摂の重要性に関する認識を深めるため、社会的包摂に関する研究、具体的な課題解決に向けての取り組み及び人材を育成することを目的として2018（平成30）年4月に設立された。

研究所は、ユニバーシティ・コモンズ・リアクト2階に所在している。また、大阪府藤井寺市にある大阪商業大学（以下「本学」という。）の藤井寺学舎を地域子育て支援事業の拠点として活用している。

主な事業として、地域子育て支援拠点事業の受託、研究プロジェクトの実施、自治体職員を嘱託研究員として招聘、公開講座の実施などに取り組んだ。これらの事業を通して、研究所は豊かな地域社会の創造に寄与し、研究者の育成も図りながら研究成果を地域社会に還元するとともに、本学の建学の理念である「世に役立つ人物の養成」に沿った地域貢献の一端を担った。

ここに2025（令和7）年度の取り組みを総括し、次年度への課題を述べる。

1. 第2期中期目標と中期計画

2022（令和4）年度に策定した、計画期間を概ね5年間とした研究所第2期中期目標及び中期計画（以下「第2期中期計画」という。）に基づき、2025（令和7）年度の実施計画の遂行に務めた。

＜中期目標1＞ 研究所のミッションを受け、特色のある研究を組織的に進める。

（中期計画1）プロジェクト研究を行う研究員を配置し、財政的支援を行う。

●実施計画1：プロジェクト研究の募集、採択、支援を実施する。

プロジェクト研究の募集を行い、3件の申請があった。共同参画研究所運営委員会（以下「運営委員会」という。）において審議の結果、2025（令和7）年3月5日付で1件、2025（令和7年）5月8日付で2件を採択した。結果、2025年度は、2024年度から継続の1件を含め、4件のプロジェクト研究に対して支援を行った。

研究テーマ	研究者氏名	所属・職名	共同研究者	研究期間
食料品小売店舗の閉鎖を考慮した買い物弱者の発生予測手法の検討	森田 学	経済学部 経済学科 准教授	木下 祐輔	2024 ～ 2025年度
仕事と子育ての両立に向けた若い世代への情報提供や体験創出に関する実践的研究	大平 剛士	総合経営学部 経営学科 専任講師	文能 啓貴	2025 ～ 2026年度
身体障がい者の観光実態調査	米盛 安奈	公共学部 公共学科 准教授	－	2025年度
障害者の就労機会と A 型事業所の継続可能性条件	明石 芳彦	経済学部 経済学科 特任教授	－	2025年度

（中期計画 2）毎年、年間の研究成果を広く公表する。

●実施計画 1：紀要、事業実施報告書を刊行する。

研究所紀要第 7 号を 2025（令和 7）年 6 月に刊行した。論文 3 本、研究ノート 1 本を掲載し、研究機関の図書館等に献本した。なお、同紀要には研究所の第 1 期中期計画に基づき実施した各種事業について、事業実施報告としてまとめて掲載した。

また、研究所紀要第 8 号の刊行に向け、掲載論文等の募集を行った。募集に対し、4 件の応募があり、すべての掲載を決定した。

<中期目標 2> 地域の特性を生かした研究を進め、成果を地域社会へ還元する。

（中期計画 1）地方自治体との連携協定に基づく事業を推進する。

●実施計画 1：連携地方自治体と意見交換を行う。

東大阪市からの事業協力要請を受け、当研究所事業に関わる以下の事業実施に協力した。

- ・東大阪市介護予防・日常生活支援総合事業 短期集中予防サービス
- ・東大阪市が実施したイベントにおいて、紀要を配布し、研究所の目的や活動内容について東大阪市民に向けて広く周知した。（東大阪市連携 6 大学公開講座）

（中期計画 2）地域社会が抱える「社会的排除」や「社会的包摂」に関する諸課題に取組み、地域社会の活性化に向けて研究成果を還元するとともに、本学の教育の活性化につなげる。

●実施計画1：前年度の検討結果を踏まえフィールドワークゼミナールと連携を行う。

今年度は、フィールドワークゼミナールの宍戸ゼミナール、東大阪市「通いの場」連絡会と連携し、「通いの場」大交流会を本学リアクトにて開催した。

(中期計画3) 地域社会が抱える「社会的排除」や「社会的包摂」に関する情報発信を積極的に行う。

●実施計画1：ホームページ等を活用して情報発信する。

研究所発足の趣旨や社会的包摂の必要性について情報を発信するとともに、本年度の活動(研究プロジェクト、藤井寺市地域子育て支援拠点事業)について随時情報発信を行った。

(中期計画4) 研究所に対する地域社会の多様な要望等の把握に努め、その内容を精査し、期待に依ていく。

●実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、連携地方自治体やセミナー等を通じ、地域社会の多様な要望等の把握に努め、内容を精査する。

東大阪市からの事業協力要請を受け、当研究所事業に関わる以下の事業実施に協力した。

- ・東大阪市介護予防・日常生活支援総合事業 短期集中予防サービス
- ・東大阪市が実施したイベントにおいて、紀要を配布し、研究所の目的や活動内容について東大阪市民に向けて広く周知した。(東大阪市連携6大学公開講座)

<中期目標3>「社会的排除」及び「社会的包摂」に対する認識、知識を高める。

(中期計画1) 社会的包摂に関係するセミナーの開催等を通じ、学内の意識啓発を進める。

●実施計画1：セミナーを開催する。

2025(令和7)年11月24日(月・祝)、「健康づくりは地域の力とつながりから」をテーマに本学のユニバーシティ・コモンズ・リアクトにおいて公開講座を実施した。講演者は、大阪公立大学 都筑 千景 教授であった。

<中期目標4> 学修の可視化を図り、学生の主体的・能動的学習を促進する。

(中期計画1) 「社会的包摂」に関連する講座情報を発信し、学生の受講を促進する。

●実施計画1：「社会的包摂」に関連する講座情報を収集し、ホームページ等で提供する。

「社会的包摂」に関連する講座情報を収集し、研究所運営委員間で共有し、必要に応じて学生に周知を促した。

(中期計画2) 地域社会の具体的な課題を題材とした教育研究活動の拡充を図る。

- 実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、地域社会の具体的な課題を題材とした教育研究活動の拡充方を検討、実施する。

フィールドワークゼミナールとの連携による地域社会の具体的な課題を題材とした教育研究活動の拡充について検討した。

(中期計画3) 課題解決のための社会連携の取組を促進するとともに、学生及び地域住民を対象とした教育プログラムを構築する。

- 実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、課題解決のための社会連携の取組手法を検討する。
- 実施計画2：前年度の検討結果を踏まえて、学生及び地域住民を対象とした教育プログラムを検討する。

学友会学生との意見交換懇談会では、課題解決のための社会連携の取組手法及び学生、地域住民を対象とした教育プログラムについての意見はなかった。

<中期目標5> 地域における「社会的包摂」の研究拠点として、地方自治体、近隣大学、産業界等と協働し、地域社会の諸課題の解決及び地域を支える人材の育成等に貢献する。

(中期計画1) 関係機関との意見交換等を行う場を設けるなど、組織間のネットワークを構築する。

- 実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、関係機関との意見交換を行う。
- 実施計画2：前年度の検討結果を踏まえて、ネットワーク構築に関して検討する。

フィールドワークゼミナールとの連携を含め検討した。

(中期計画2) 研究所に対する地域社会の多様な要望等の把握に努め、その内容を精査し、期待に応えていく。(再掲)

- 実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、連携地方自治体やセミナー等を通じ、地域社会の多様な要望等の把握に努め、内容を精査する。(再掲)

東大阪市からの事業協力要請を受け、当研究所事業に関わる以下の事業実施に協力した。

- ・東大阪市介護予防・日常生活支援総合事業 短期集中予防サービス
- ・東大阪市が実施したイベントにおいて、紀要を配布し、研究所の目的や活動内容について

東大阪市民に向けて広く周知した。(東大阪市連携6 大学公開講座)

<中期目標6> 協働、連携する機関を増やし、研究と教育の領域拡大を図る。

(中期計画1) 積極的に各種機関に働きかけ、協働、連携する機関数の増加に努める。

- 実施計画1：各種機関を訪問し、共同参画研究所の活動を広報する。
- 実施計画2：各種機関との協働手法等を検討し、協働等を進める。

東大阪市、藤井寺市、四条畷市、門真市を訪問し、共同参画研究所の事業計画を説明し、今後の協働依頼を行った。

(中期計画2) 連携の協定を締結した機関との研究、教育を積極的に推進する。

- 実施計画1：協定締結機関を訪問し、研究員の招聘等を案内し、連携を働きかける。

東大阪市、藤井寺市、四条畷市、門真市を訪問し、研究員の活動実績並びに招聘等の説明をし、門真市から嘱託研究員の申請があった。

<中期目標7> 学長のリーダーシップのもと、学内の共同参画を推進する。

(中期計画1) 学内の共同参画に関する実態を把握し、共同参画を推進する方策を検討する。

- 実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、学生等の共同参画に関する意識等の実態把握に努め、内容を精査する。

学友会等、学生の意見を広く把握する手法について、検討した。

(中期計画2) 具体的な学内における共同参画推進策を提言し、実施する。

- 実施計画1：前年度の検討結果を踏まえて、実態把握の結果をもとに、共同参画推進策を検討する。

学友会学生との意見交換懇談会では、課題解決のための社会連携の取組手法及び学生、地域住民を対象とした教育プログラムについての意見はなかった。

<中期目標8> 外部資金の活用を図り、研究所の財政基盤の強化を進める。

(中期計画1) 外部資金獲得のためのアクションプランを策定し、実施する。

- 実施計画1：外部資金獲得のためのアクションプランを策定する。

外部資金に関する情報を収集し、検討した。

(中期計画2)「社会的包摂」関係の競争的資金の獲得に努める。

- 実施計画1:前年度の検討結果を踏まえて、「社会的包摂」関係の競争的資金獲得を検討する。
「社会的包摂」関係の競争的資金の情報を収集し、検討した。

<中期目標9> 研究所に関わる者すべてが法令順守意識を持ち、法令順守を徹底する。

(中期計画1) 運営委員会等において、法令順守に関する情報提供及び啓発を行う。

- 実施計画1:法令順守に関する情報提供を行う。
法令順守に関する情報提供を行った。

(中期計画2) 研究所が保有する個人情報を取り扱う業務に従事する者に対する教育研修を実施し、個人情報の保護に関する取組を徹底する。

- 実施計画1:個人情報保護に関する情報を提供し、注意を促す。
個人情報保護に関する情報を提供し、注意を促した。

<中期目標10> 研究所の安定的運営を図る。

(中期計画1) 共同参画研究所研究員を採用し、研究の充実を図る。

- 実施計画1:嘱託研究員の採用を行う。
門真市から1名の申請があり、2026年度に招へいを予定している。

(中期計画2) 運営委員会において研究所に係る重要事項を検討し、方針を決定する。

- 実施計画1:運営委員会を適宜開催する。
運営委員会を4回開催し、令和7年度における運営方針等重要事項を審議した。

第1回	2025.5.8(木) 12:15～12:50
	審議事項:令和7年度研究プロジェクトの選考について(追加募集) 令和7年度研究プロジェクト研究計画変更について 報告事項:2025年度事業計画について
第2回	2026.2.6(金) 発信 S-Navil回覧
	審議事項:令和8年度嘱託研究員の委嘱について
第3回	2026.3.4(水) 12:00～12:12
	審議事項:令和8年度共同参画研究所事業計画について 共同参画研究所紀要投稿論文等査読について 報告事項:令和7年度共同参画研究所事業報告について
第4回	2026.3.6(金) 発信 S-Navil回覧
	審議事項:大阪商業大学共同参画研究所諸規程の改正について

(中期計画3) 担当所管である総合交流支援課により事業を推進する。

●実施計画1：総合交流支援課の体制強化を図り、事業を円滑に進める。

総合交流支援課の体制強化に関して検討した。

(中期計画4) 情報公開を徹底し、研究所のホームページの充実を図る。

●実施計画1：ホームページ等により発信する情報を適宜更新する。

研究所のホームページを活用し、研究所の活動内容(研究プロジェクト、藤井寺市地域子育て支援拠点事業等)について親しみやすいイラストを交えて図解し、情報発信を行った。

2. 藤井寺市地域子育て支援拠点事業

研究所の具体的な取組みのひとつとして、藤井寺市より申込みのあった「地域子育て支援拠点事業」を受託研究として実施した。受託研究の内容として本学藤井寺学舎(以下「学舎」という。)において、子育てひろば「ユッタリユックリ」(以下「ひろば」という。)を運営し、当該事業の実施を通して、豊かな地域社会創造に関わる貢献活動を展開すると同時に地域子育て支援事業にかかるフィールド研究を行った。

1) 藤井寺市からの受託内容

①申込者：藤井寺市

②研究課題：藤井寺市地域子育て支援拠点事業(一般型)

③研究概要：

(1)子育て親子の交流の場を提供し、子育て親子間の交流を深める取組み等を実施する。

(2)子育てに不安や悩みを持っている親に対する相談又は援助を実施する。

(3)子育て親子が必要とする身近な地域の様々な育児や子育てに関する情報を提供する。

(4)子育て及び子育て支援に関する講習等を実施する。

④研究実施期間：2025(令和7)年4月1日から2026(令和8)年3月31日

⑤受託金額：10,084,000円

2) 研究実績

(1) 子育て親子の交流の場を提供し、子育て親子間の交流を深める取組み等の実施

【運用方法】

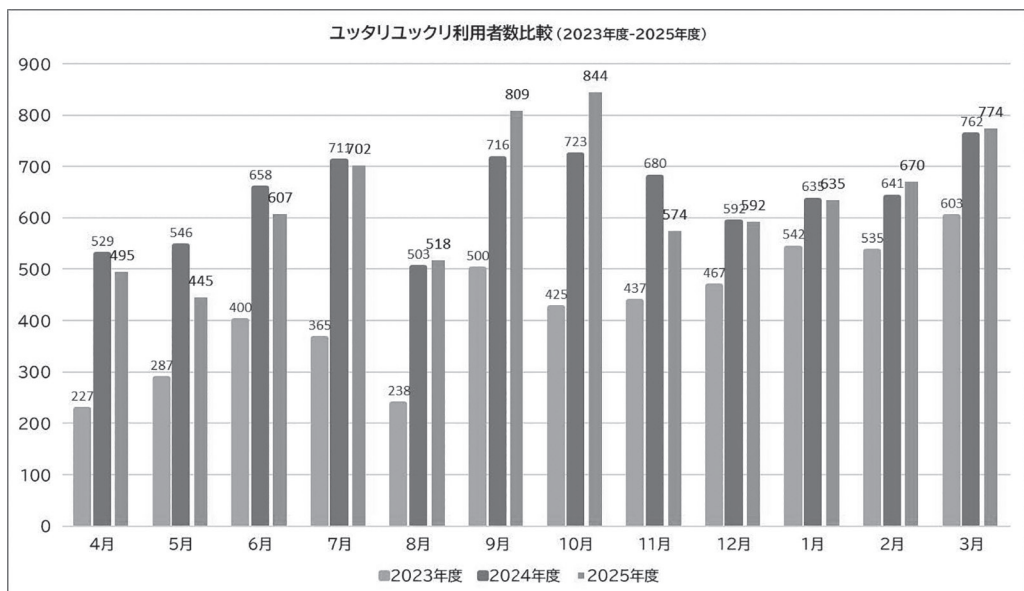
■開設時間：10:00～15:00

■対 象：藤井寺市在住の未就園児（基本的には地域の縛りはなく近隣自治体在住者の利用も拒まない）

昨年度より利用者は増加した。利用者の満足度向上のため、昨年度に引き続き、目的の異なる定例イベントを4種類実施した。お子さんの成長を感じてもらう「ハイハイレース、ヨチヨチレース」、親子の交流を深める「みんなで遊ぼう」、当月誕生日のお子さんをお祝いする「ハッピーバースデー～みんなでお祝いしましょう～」、子育てに役立つ情報を学術的な視点から提供する「子育てユッタリ講座」である。また、4月のみんなで遊ぼうは利用者同士の交流を主目的として実施した。

イベント後には、アンケートを実施し、参加者からの意見徴収に努めた。その内容を翌月以降の企画に反映させるほか、月1回のスタッフミーティングでは、スタッフが日々感じている問題点等について話し合い、早期改善に向けて取組んだ。今後も利用者の満足度を向上できるよう検討を重ねる。

1年間の開設日は、282日となり、利用者数は、延べ3,491組、7,665名（令和6年度は延べ3,635組、7,696名）であった。



上記は、2023年度から2025年度の利用者数の比較である。利用者数は昨年度比で横ばいの状況であった。

(ア) イベント【ハイハイレース、ヨチヨチレース】

対象：ひろば利用親子

概要：ハイハイやヨチヨチ歩きを始めたお子さんのレースを行い、成長を実感できるイベントとして位置づけて実施。

開催日	参加者			
	家族	保護者	子ども	計
4月15日(火)	6	7	6	13
5月15日(木)	5	5	5	10
6月16日(月)	10	10	11	21
7月14日(月)	10	10	10	20
8月19日(火)	3	4	4	8
9月16日(火)	7	7	7	14
10月14日(火)	15	15	19	34
11月12日(水)	8	8	9	17
12月15日(月)	7	7	8	15
1月13日(火)	7	7	7	14
2月13日(金)	9	11	11	22
3月11日(水)	9	9	10	19

(イ) イベント【みんなで遊ぼう】

対象：ひろば利用親子

概要：親子の交流を目的として原則月1回開催し、親子で楽しめる月替わりの内容で実施。

開催日	内容	参加者			
		家族	保護者	子ども	計
4月23日(水)	はじめましてこんにちは♪ ユッタリユックリでおともだちをつくろう！	10	10	12	22
5月21日(水)	ユッタリユックリに救急車がやってくる！！ たいせつなこどもの事故を未然に防ぐ 救命士さんのおはな	16	18	16	34
6月24日(火)	雨の日だって元気いっぱい！ みんなで楽しくリズム遊び	14	15	15	30
7月16日(水)	絵本でみんな笑顔！生協キャラバン隊 ～トマトちゃんもやってくるヨ～	18	19	19	38
8月22日(金)	わくわく楽しい夏祭り♪	16	17	20	37
9月22日(月)	親子でチャレンジ！にこにこうんどうかい☺	16	16	18	34
10月29日(水)	作って遊ぼう！ハッピーハロウィン	14	15	18	33
11月22日(土)	(ホームカミング・デー)秋のどきどき体験ランド	35	40	52	92
12月23日(火)	ふうせんサンタがやってきた♪ 笑顔はじけるクリスマス会	17	17	19	36
1月21日(水)	ゲームでGO！親子ふれあい大作戦	13	13	15	28
2月16日(月)	音楽って楽しいね♪ ～れあこっちゃんと歌や楽器の音で遊ぼう！～	14	14	15	29
3月17日(火)	いっぱいのおりがとうをつめこんで、 みんなであそぼう♪	14	14	15	29



(ウ) イベント【ハッピーバースデー～みんなでお祝いしよう～】

対象：ひろば利用親子（当月誕生日のお子さんと保護者）

概要：当月誕生日のお子さんを祝うイベントとして実施。

開催日	参加者			
	家族	保護者	子ども	計
4月30日(水)	5	5	5	10
5月30日(金)	3	3	3	6
6月30日(月)	1	1	1	2
7月31日(木)	2	2	3	5
8月28日(木)	5	5	6	11
9月30日(火)	2	3	3	6
10月30日(木)	7	8	8	16
11月28日(金)	7	7	10	17
12月24日(水)	16	16	21	37
1月30日(金)	6	13	15	28
2月27日(金)	7	7	7	14
3月24日(火)	4	5	6	11



(2) 子育てに不安や悩みを持っている親に対する相談又は援助の実施

すべてのひろば開設日において、常駐保育士による相談又は援助体制を整えた。施設名のとおり来場者に親子共々「ユッタリユックリ」とした時間を過ごしてもらうことにより、「子育て中のほっとできる空間と時間」を提供できた。スタッフのさまざまな声かけを通して、保護者と子どもに安心感を与え、日々信頼関係を構築していく中で、子育ての援助支援を実施した。

また、藤井寺市の担当者等とのミーティングにより確認した連携体制をもとに、「子育てユッタリ講座」に来場した保護者の支援等を充実させた。今後も定期的な意見交換を行うことにより、同市との連携を密に図っていく。些細な日常の子育てにおける悩みを気軽に相談できるひろばは、子育て中の母親の心のよりどころとなっている。

(3) 子育て親子が必要とする身近な地域の様々な育児や子育てに関する情報の提供

子育てに関する情報誌や書籍等を整え、ひろば内で配架した。また、藤井寺市が子育て世帯向けに運用している同市の公式情報を簡単に手に入れることが可能なアプリや、地域で実施している子育てイベントの案内など、子育てに有益な情報を広く提供した。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

研究所荻田研究員による子育て支援講習会を毎月1回実施した。「子どもの健やかな育ちを支えるために乳幼児からできること」をサブテーマに据え、連続性を持たせた講座を展開した。講師の話を楽しみに来場されるリピーターも増加し、子育て中の母親の興味関心を引くテーマ設定と空間を提供できている。又、父親や祖父母等、子育てに関わるだれもが参加できることを目的として、土曜日にも開催した。

講習会のテーマと参加家族数は、次の通りであった。

子育て支援講習会（子育てユッタリ講座）

開催日	内容	参加者			
		家族	保護者	子ども	計
4月25日(金)	オリエンテーション (スタッフ紹介、年間計画の相談、子育てQ&A)	6	6	9	15
5月22日(木)	子育てと利他行動 ～援助行動の傾向から考える～	6	6	8	14
6月26日(木)	子育てと罪悪感	9	9	10	19
7月24日(木)	子どもとの対話	3	3	3	6
8月29日(金)	子育て中のイライラ	9	10	11	21
9月20日(土)	(ホームカミング・デー) スマホ、ゲームとの付き合い方	17	23	22	45
9月25日(木)	核家族時代の子育て ～メリットとデメリットから考える～	14	14	15	29
10月23日(木)	腸内環境とメンタルヘルス	3	3	3	6
11月27日(木)	腸内環境とメンタルヘルス (2)	6	6	6	12
12月19日(金)	親子の発達と表現活動	5	6	5	11
1月29日(木)	子育てと子どもの自立	6	6	6	12
2月26日(木)	非認知能力の発達 ～乳幼児期から青年期までを考える～	5	5	5	10
2月28日(土)	(ホームカミング・デー) 子どもたちのメンタルヘルスとジェンダー格差	8	13	9	22
3月23日(月)	2025年度の振り返り	8	8	8	16

3) 総 括

昨年度3月からコロナ禍前の10時から15時の通しでの開館に戻したが、引き続き感染症対策に留意して運営した。

また、利用者数は昨年度比で横ばいの状況であった。今後も子育て支援の拠点として子育て中の親子に対して、利便性を重視しつつ、何ができるかを常に検討しながら運営し、子育て支援の拠点として、本学が果たすべき役割を明確にして事業展開を図っていく。

3. 今後の課題

2026（令和8）年度も引き続き、第2期中期目標と中期計画にもとづき、着実な事業遂行にあたり、研究所の事業である「地域における子育て支援など児童に係わる分野」「高齢者の健康寿命など高齢者に係る分野」「障がい者と地域との関係構築など障がい者に係る分野」「男女共同参画に係わる分野」についての調査・研究を進める。

2019（令和元）年度から連携自治体等の職員を嘱託研究員として招聘し、地方自治体の抱える課題をテーマとした研究を推進しているが、当該研究成果が自治体政策の企画立案や改善に活用されることにより、地域への研究成果の還元と貢献につなげていく。2026年度は門真市からの招聘を予定している。今後も引き続き、連携自治体等との連携をより強化していく。

研究プロジェクトについては、予算の範囲内で可能な限り研究者への財政的支援を行い、研究所として知の集積を推進する。

大阪府藤井寺市における地域子育て支援拠点事業については、同市との連携を密にし、子育て支援の拠点としての役割及び本学が果たすべき使命を再認識し、事業を継続実施する。

次年度初旬に発行予定の大阪商業大学共同参画研究所紀要第8号を通じて研究所の取組み及びその研究成果を広く発信するとともに、更に積極的な事業展開を図りつつ、研究所に寄せられる期待に応えていく。2026（令和8）年度は、第2期中期計画の4年目であることから、第1期中期計画の取組みを踏まえ、研究所の目的が果たせるよう、関係者の連携協力もと諸事業を展開していく。